

# 粒子・流体プロセス部会ニュースレター(創刊号)

2008年5月1日発行

(社)化学工学会 粒子・流体プロセス部会発行

## 部会長からのご挨拶

このたび上山先生のあとの部会長をおおせつかりました堀尾です。粒子流体プロセス部会は、化学・材料プロセスから環境・エネルギーまで、広い技術課題を支援する基盤領域を担っており、化学工学会の中でも最大規模の拠点部会です。



堀尾正韜部会長

本部会には伝統とも言うべき内発力のある高水準の分科会活動があります。それを生かしつつ、分科会というクラスターの集合の中にさらに刺激的な議論の場を作り、有機的な構造をもった部会に発展させ、化学工学会ならではの粒子・流体プロセスの存在感のある部会にしていきたいものです。それは化学工学会を対外的に代表し、その分野の大きな流れを作り出すという部会制度導入時の初心に帰ることでありたいと思います。

そのためには、私たちが研究している多様な粒子や流体およびそれらの複合プロセスの魅力や解決を待たれている課題を互いに共有し、先端的な話題にあふれたトポス(場)を作る必要があります。また、分野間交流を重視し、基礎研究・先端研究をそれぞれ促進し、産官学連携・国際戦略を確立し、人材育成の視点も加味した総合的な立場から、部会セミナーの開催、ニュースレター発行、魅力あるホームページの作成、高い関心を呼ぶ表彰、Special Issue 企画、国際シンポの開催等をすすめ、産業界技術者・研究所員・教員・学生等各会員へのサービスや、各大学・工専等における粒子・流体プロセス系カリキュラムや教材の強化を支援し、マスコミへの発信などにも取り組む必要があります。

微力ながら、副代表・幹事・分科会代表各位(下記の記事参照)のお力を得て、部会としての組織力を強化していきたいと思っております。関連して、規約、細則関係の充実と徹底、拡大幹事会の重視、総会の開催方法の見直しなども考えております。

21世紀の中盤をにらんだ部会活動の構築に、皆様のご支援をいただければと思います。

(部会長・堀尾正韜)

## 粒子・流体プロセス部会設立から現在まで

2002年4月に本「粒子・流体プロセス」部会が発足してはや6年の月日が経過しました。学会全体としては、本部会が発足するまでに、2000年4月の「バイオ」部会の発足を皮切りに、「超臨界流体」、「エネルギー」、「安全」、「エレクトロニクス」の計5つの部会が既に立ち上がっていました。「特別研究会を解消し、部会制に移行する」という本部の意思決定にどのように対応するか、2000年6月頃から水面下での動きが開始されました。

当時、私は、「ミキシング技術」特別研究会の幹事のほか、「熱物質流体工学」特別研究会の代表を務めており、自然なこととしてこの2つを合併して新たな部会を発足するという発想を得ました。

同年静岡大学浜松キャンパスで開催されました第33回秋季大会最終日に「ミキシング技術」、「熱物質流体工学」、「流動層」、「気泡塔・懸濁気泡塔の装置設計」の4つの特別研究会の代表者らが急遽集まり、この4つが一纏まりになって部会を発足させる可能性が模索され、この線に進むことの合意を見て、各特別研究会に持ち帰ることになりました。忘れもしませんが、同秋季大会は台風の影響で大波乱となった大会です。部会発足に向けての先行きを予兆していたのかも知れません。

同年11月2日、学会本部に特別研究会ならびに研究会の代表者らが招集され、理事会VISION2011委員会作成の資料「部会制結成に当たって」が、部会制ご担当責任者の学会庶務理事から提示されました。「ミキシング」、「流動層」、「気泡塔」の3つが「流動・粒子プロセス」部会となる案がその席で示されましたが、先の4つの特別研究会の合意に基づき、「粒子・流体プロセス」部会を立ち上げたい旨、発言しました。多くの化学プロセスでは、「粒子(流体)」、「流体(粒子)」および「流体(分散流体)」といった共存関係が見られ、これらはしばしば切っても切れない関係であり、その全体をカバーできる部会を設立することで、より高次の成果が期待されるという思いが込められていました。また「流動・粒子」よりも「粒子・流体」の方が語呂がよいということも、その命名の1つの理由でした。

翌年2001年4月からの発足を望む理事会の強い要請もありましたが、その1年後の2002年4月からの発足に備えることになりました。発足に当たっての最後の難問は、何方に初代部会長になっ

て頂くかでした。結局、部会制ご担当の庶務理事を務めておられた薄井洋基先生に初代部会長をお引き受け頂きました。くだんの4つの特別研究会は、部会では各分科会となりさらに粉体プロセス分科会が加わり部会の冠の下、5つの分科会が緩く連帯する形でスタートを切りました。

2年後、部会長は大阪大学の平田雄志先生に引き継がれました。部会創設の理念に基づき部会内の各分科会を横断する新たな企画・行事を遂行頂きました。

そのまた2年後、部会長は同じ大阪大学の上山惟一先生に引き継がれました。上山部会長のもとでは、3つの部会賞、「フロンティア賞」、「シンポジウム賞」、「技術賞」が制定され、フロンティア賞を除いてその表彰が実行に移されました。また他部会に跨る国際シンポジウムも回を重ねつつあります。以上が現在に至るまでの経緯です。

今春からは部会長は堀尾正靱先生に引き継がれました。歴代の会長が「熱物質流体力学」、「ミキシング」、「気泡塔」をバックグラウンドにしておられることを考えますと、「流動層」から新部会長が立って頂きましたことは、誠に祝着なことと考えます。部会の真の使命は、旧特別研究会の存続の場の提供でもなければ、ましてや学会の会員増強でもないはずです。新部会長のもと、本部会が学会の看板部会としての実力を備え、真価を発揮できるよう、当方も微力ながら尽力したいと考えます。

(副部会長・上ノ山周)

## 分科会の紹介とご挨拶

### 熱物質流体力学分科会

今年度新たに熱物質流体力学分科会の代表を務めさせていただきます神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻の鈴木洋です。よろしくお引き立ていただきますようお願い申し上げます。

本分科会では化学工学会第40回秋季大会におきまして「S-2 熱物質流体力学の新展開」と題したシンポジウムを企画しております。熱物質流体力学に関連する講演を広く募集しておりますので奮ってお申し込みいただきますようお願い申し上げます。

また仙台で行われます秋季大会の前日9月23日に同地におきまして恒例の「熱物質流体力学セミナー」の開催を企画しております。詳細につきましては決まりしだい分科会の皆様、また粒子流体プロセス部会の皆様にお知らせいたしますので、是非ご予約にいらしていただければと存じます。

さらに国際学会として International Workshop

on Process Intensification 2008 が10月15日～18日の日程で東京工業大学(大岡山キャンパス)にて開催されます。粒子・流体プロセス部会の主催で、これからの熱物質流体力学分科会のひとつの柱として提案させていただいておりますプロセス強化に関する問題を議論いたします。講演申し込みが5月15日と迫っておりますが、是非ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。なお、詳細につきましては、

<http://www.chemeng.titech.ac.jp/~IWPI2008/index.html> をご覧いただければと存じます。

本年度も熱物質流体力学分科会行事に積極的にご参加頂きますようお願い申し上げます。

(分科会代表・鈴木洋)

### ミキシング技術分科会

東北大学の今野です。第73回化学工学会年会(静岡大)の3月18日に開催されたミキシング技術分科会総会にて、今期(平成20、21年)分科会会長にご指名頂き、就任することとなりました。ミキシング技術分科会は、セミナーや各地区の技術サロンなどの活発な活動、あるいはミキシング技術の国内の動向を網羅した Mixing Technology Now の発行などを通して、会員間の情報交換、国内外への情報発信を行っております。本年度の本分科会の活動計画としましては、大きなものが2つあります。

2008年10月7日～9日に米沢の伝国の杜(でんこくのもり)にて、2nd Asian Conference on Mixing という国際会議を計画しています。アジア各国からミキシングを専門とする研究者が集まり、約40件の発表を予定しています。詳細は下記 2nd ACOM のホームページをご参照下さい。  
<http://mixing2008.yz.yamagata-u.ac.jp/>

さらに、2008年11月4日～5日に名古屋の中部大学鶴舞キャンパスにて、東海支部と共同主催の第42回進歩講習会「最新ミキシング技術の基礎と応用」という講習会を開催します。初心者からベテランのエンジニアを対象とした、2日間ミキシングをみっちり勉強して頂く企画です。本講習会では同時に専用のテキストを執筆中であり、これ1冊でミキシングのことは何でも分かるという内容を予定しております。詳細はミキシング進歩講習会ホームページ

<http://www.ach.nitech.ac.jp/~chemeng/kakou/mixk-osyu.htm> をご参照下さい。

さらに、毎年恒例の3地区(東日本、関西・東海、九州地区)の特色を打ち出したミキシング技術サロンを計画しており、最新情報からオフレコ情報ま

で何でもありの内容です。

このように本分科会は、今年度も活発に活動していく予定です。詳細情報は分科会ホームページ <http://www.scej.net/mixing/> をご参照下さい。

(分科会代表・今野幹男)

### 気泡塔分科会

前任の室山勝彦先生の後をうけて、代表を務めることになりました慶應義塾大学寺坂宏一です。よろしくお願ひいたします。

本分科会では化学工学会第 40 回秋季大会(東北大学)で、「S-4 気-液、液-液、気-液-固、気-液-液分散系プロセスのイノベーション」と題したシンポジウムを企画しています。気泡塔だけに限らず、多相系、混相系の現象に関わる講演を予定しています。また今後も気泡・液滴分散系の研究発表を広く募集しますので奮ってご参加ください。

また、定番企画である気泡塔サロンは、上記のシンポジウムが行われる東北大学内の会場にて学会期間中に開催予定です。講師として住友化学島田直樹氏を迎え、最新の気液2相系反応装置の CFD を利用した設計についてご講演いただく予定です。講演のあと懇親会も用意していますのでぜひご参加ください。

本分科会関連分野の主な国内学会を下記にご紹介します。

分離技術会年会 2008 の技術・研究発表会「S-2 ガス吸収」が 2008 年 6 月 6~7 日に明治大学生田校舎にて開催されます。

<http://www.sspej.gr.jp/nenkai08.html>

2008 年 8 月 8~10 日に会津大学で開催される日本混相流学会年会講演会 2008 においてオーガナイズドセッション「OS-3 物質輸送と水処理」および「OS-14 マイクロ・ナノバブルの科学と技術的展開」でマイクロバブル関連の報告が予定されています。

<http://www.toptour.co.jp/conv/3218/jsmf2008/>

主な国際学会としては、The 8th International Conference on Separation Science and Technology (ICSSST08)が 2008 年 10 月 2 日~5 日に日本大学研修所(軽井沢)にて開催されます。申し込みの締め切りは 2008 年 5 月 30 日です。ぜひ「Gas Absorption」への申し込みをお待ちしております。

<http://www.sspej.gr.jp/ISST/japanese.htm>

他に、本ニューズレターに掲載されている ASCON-IEEChE へも奮ってご参加ください。

また、気泡塔分科会主催国際会議である第 8 回日独気泡塔シンポジウムは土屋活美先生(同志

社大)を Chairman として同志社大学今出川キャンパス寒梅館にて 2009 年開催を目指して準備中です。日独気泡塔シンポジウムは第 1 回がドイツで行われて以来 3 年ごとに日本またはドイツで開催されている国際学会です。詳細については Chairman または本分科会へお願ひいたします。

他にも新しい情報は気泡塔分科会のホームページおよび気泡塔ニューズレター(第7号を近日発行予定)で逐次発信していきますので、ご関心をいただければ幸いです。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/bc/>

(分科会代表・寺坂宏一)

### 流動層分科会

流動層は、化学プロセス、エネルギー、材料、食品・製薬、廃棄物処理など広範な分野で利用されています。流動層分科会は、流動層技術の基礎、現象論から、シミュレーション、スケールアップ、そして応用技術展開まで、学問的進化と産業への寄与を目的として活動を行ってきています。

流動層分科会の行事としては、「粒子・流体プロセス技術コース 2008」を産業技術総合研究所つくば西事業所で 2008 年 8 月 28~29 日に実施する予定です。今年は、つくばでの実習のほかに、アドバンスコースとして国内の数箇所の大学・高専を会場にしたサテライト実習が予定されています。また、第 14 回流動化・粒子プロセッシングシンポジウムを 12 月頃に大阪で開催する予定です。関東支部と共催で「最近の化学工学講習会」を秋に開催するとともにテキストを発行する予定です。

流動層関連の国際会議としては、ASCON-IEEChE が 8 月末に札幌で開催されますが、流動層分科会も開催に協力いたします。9 月に京都で開催される ISCRE(国際反応工学会議)では、(直接共催などはしていませんが)「流動層反応器」のセッションが開催され、流動層分科会メンバーが組織委員、論文審査などを通じて貢献しております。

[http://tshimizu.eng.niigata-u.ac.jp/scej\\_fluidize/index.htm](http://tshimizu.eng.niigata-u.ac.jp/scej_fluidize/index.htm)

(分科会代表・清水忠明)

### 粉体プロセス分科会

2006、07 年度の代表、吉田英人先生(広島大学)、副代表、大谷吉生先生(金沢大学)から、2008、09 年度は、空閑良壽(代表、室蘭工大)、松坂修二先生(副代表、京大)、瀬戸章文先生(副代表、金沢大)、藤本敏行先生(会計・通信、室蘭工大)の体制で引き継ぎさせていただきました

た。2008年3月18日には(化学工学会年会期間中、静岡大学浜松キャンパス)、幹事会(出席12名)を行い、平成20年度行事予定について検討いたしました。

化学工学会秋季大会(東北大)においては、9月24日-25日に、シンポジウム「応用展開を目指す微粒子の生成と機能化および特性評価とハンドリング」を企画いたしました(担当松坂、瀬戸先生、空閑)。奮ってご参加ください。その他の共催行事として、以下の行事を予定しています。

1. 「製粉業における粉砕プロセス(仮題)」(講演と工場見学会、担当内山智幸先生(道工試)、空閑)、主催:日本粉体技術協会粉砕分科会、粉体工学会北海道談話会、平成20年6月27日、JST プラザ札幌、江別製粉(株)(札幌市および江別市)
2. 「粒子帯電の特性評価法(仮題)」(講演と総合討論、担当松坂先生)、主催:粉体工学会粒子帯電制御研究会、詳細は夏頃決定
3. International Aerosol Symposium 2008 (担当大谷先生)、主催:日本エアロゾル学会、日時平成20年8月21-22日(日本エアロゾル学会討論会と同時開催、金沢)
4. 第4回エアロゾルシンポジウム11月東工大にて(担当大谷先生)、主催:日本エアロゾル学会
5. 化学工学会関西支部姫路大会にて粉体関係シンポジウムの企画、11月17-18日(担当鈴木道隆先生(兵庫県立大))、
6. 粉体に関する討論会 主催:粉体工学会(下坂厚子先生(同志社大))  
また、今後のスケジュールとして、  
①平成21年度化学工学会秋季大会(中国、四国支部担当)シンポジウムのテーマ策定。  
②粉体プロセス分科会主催行事の企画として、ナノ粒子の計測と標準粒子関連のセミナー等を議論しています。会員の皆様のご意見、アイデアをお待ちしておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

(代表・空閑良壽)

#### IWPIのご案内

2006年10月に神戸大学で開催されましたプロセス強化に関する国際会議 IWPI (International Workshop on Process Intensification)の第2回が本年10月に東京工業大学大岡山キャンパスで開催されます。同会議では英国 New Castle Univ.の Prof. G. Akay による Plenary Lecture、国内外の著名研究者を招待しての Keynote Lecture のほか口頭、ポスターによる一般発表を募集いたします。

今回は粒子流体プロセス部会、SIS 部会、反応工学部会の共同主催となりました。前回と比較してより広範囲な分野におけるプロセス強化に関する研究成果が発表されるものと思われます。ぜひご参加をお願いいたします。

日程:10月15日(水)-10月18日(土)

会場:東京工業大学大岡山キャンパス

発表申込締切:5月15日(100語の Abstract)

その後 Extended Abstract(2ページ)を7月31日までに提出

事前参加申込締切:9月1日

参加費:事前申込 30,000円、学生 10,000円

当日 35,000円、学生 15,000円

連絡先:東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻 吉川史郎 Tel&Fax 03-5734-3278

E-mail syoshika@chemeng.titech.ac.jp

詳細は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.chemeng.titech.ac.jp/~IWPI2008/index.html>

(東工大・吉川史郎)

#### ASCON-IEEChEのご案内

Asian Conference on Fluidized Bed and Three-Phase Reactors (流動層と三相反応器に関するアジア会議)は、とくに流動層、気泡塔、三相反応器等の複数の相(気・液・固)を操作する反応器やそれらの反応器の特徴を活かしたプロセスを研究するアジア諸国の研究者が一堂に会し、各国における最先端の研究と技術開発成果を発表、討論し、これを通じて国際交流を推進することを目的として、日本、韓国、台湾およびタイ国をホスト国として過去10回開催されました。

第11回会議は、2008年8月31日から9月3日に札幌市において開催することが決定しましたが本会議の趣旨である「アジア諸国の最先端研究に関する情報交換と研究者・技術者の交流」をより発展させるとともに、「多相系反応器の新たな展開をアジアから発信する」ことを目的として、論文発表となる対象を化学工学の重要分野、すなわち、エネルギー、環境、材料およびバイオ技術の分野に拡大しました。これに伴い、会議の主タイトルを 1st Asian Conference on Innovative Energy & Environmental Chemical Engineering (革新的化学工学に関する第1回アジア会議、略称は ASCON-IEEChE)に変更し、これが過去10回の会議の発展型であることを明記するため、A New Paradigm Emerging from Fluidized-Bed and Three-Phase Reactors の副題を付しました。会員各位のご参加をよろしくお願致します。詳細は以

下のホームページをご覧ください。

<http://web.mac.com/exergy/iWeb/Site/ASCON-IEECE.html>

(北大・林潤一郎)

### IWPT3のご案内

3<sup>rd</sup> International Workshop Process Tomography (IWPT-3)が2009年4月17-19日に東京で開催されます。アブストラクトの申し込みは2008年10月1日です。詳しくは、<http://www.isipt.org/IWPT3/>をご覧ください。

(静岡大・齋藤隆之)

### 粒子・流体プロセス技術コース 2008のご案内

本技術コースは流動層技術コースとして1987年に産声を上げました。当時から大学の先生方が講義の講師を勤め、工業技術院北海道工業開発試験所の研究員が実習を行うというスタイルで現在もこれを踏襲しています。

その後、北海道の研究者が少なくなったこともあり、実習につくばの流動層関係者の協力を得るようになりました。2001年に独立行政法人産業技術総合研究所に移行し、引き続き北海道で開催して来ましたが2005年の第19回終了後に当時の北海道センターの諸事情により、産総研つくば西事業所(旧資源環境技術総合研究所)に移転することになりました。移転に合わせて主催を化学工学会粒子・流体プロセス部会の流動層分科会に、名称も「粒子・流体プロセス技術コース+西暦」に変更しました。これは、つくばでも流動層実習を担当できる研究員が少なくなって来たことと、粒子・流体プロセス部会が発足したことが関係しています。これにより、粉体や気液などを含めた混相流技術の実習を取り入れることが出来るようになりました。例えば、気液二相流中での伝熱、ガスハイドロレートの生成と流体中での挙動観察、ケイ酸塩ナノチューブやアモルファス粒子の合成、粉体の機械的コーティングなどがあります。

ただ、産総研研究員の異動が激しいこともあり2008では前2者は実習が出来なくなりました。そのようなこともあり、新たに大学の協力を得てサテライト実習コースを設けることとなりました。現時点では鹿児島大学、九州工業大学、新潟大学、東京高専の4つですが、実習生が技術コース開催日以降に受講したい大学に出向いて大学の研究設備を使って実習を受けられるというものです。今のところ流動層関連実習に留まっていますが、今後、他の分科会関係者の協力が得られれば様々

な分野の実習が用意できると考えています。

今年の技術コースは以下に示すような内容で実施しますが、詳細と最新情報につきましては末尾に記したURLを参照下さい。また、昨年の様子についても見る事が出来ますが、一部の写真を紹介します。



講義の様子



DEMシミュレーション



循環流動層



気泡・粒子挙動



石炭燃焼



機械的粒子複合化

2008年8月28日(木)

10:00-11:30 流動層初心者向けボランティアコース  
流動層基礎用語解説、基本計算練習  
産総研 幡野 博之氏

13:00-19:00 本コース  
バイオマスガス化パイロットプラントの運転実績(仮題)  
電力中央研究所 芦澤 正美氏  
流動層を用いた薬剤コーティング(仮題)  
神戸学院大学 市川 秀喜氏  
スラリー反応器によるバイオマスの石炭化(仮題)  
日揮 片桐 勤氏  
流動層設計のコツ

東京農工大学 堀尾 正靱氏

2008年8月29日(金)

午前・午後でテーマを変えて受講します。

実習テーマ  
流動層石炭燃焼、流動層基礎、循環流動層、  
DEMによる流動層シミュレーション、機械的粒子  
複合化、ケイ酸塩ナノ粒子の合成

サテライト実習

下記機関の協力が得られています。  
鹿児島大学 触媒流動層を用いた化学反応  
九州工業大学 流動層コーティングあるいは  
減圧流動層

新潟大学 小型循環流動層燃焼装置を用いた石炭・汚泥の混焼

東京高専 振動流動層あるいは2次元流動層における圧力変動

粒子流体プロセス技術コース2008

<http://staff.aist.go.jp/h.hatano/fbtc/fbtcTopPageL.html>

過去の技術コースについては下記を参照してください。

<http://unit.aist.go.jp/energy/cgg/fbc21/index.htm>

(産総研・幡野博之)

### 粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞・フロンティア賞・技術賞

皆様既にご承知のように、粒子・流体プロセス部会賞が制定され、選考・表彰が実施されています。部会賞事業は、粒子・流体プロセス関連分野の研究・企業活動を活性化するものであります。その制定へのルールを敷かれた平成16・17年度の平田部会長並びに部会役員の皆様のご慧眼に敬意を表するとともに、実施に至るまでの多大なご尽力を賜った平成18・19年度の部会役員の皆様に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

平成18年度には粒子・流体プロセス部会技術賞として株式会社フジキンと神戸大学の共同開発による「新静止型流体混合・分散器の開発」が第1回粒子・流体プロセス部会技術賞を受賞されました。

部会技術賞内規(詳細は：<http://www2.scej.org/partluid/data/sympo-kitei.doc>)にしたがって「化学工学会技術賞」に推薦させて頂いたところ、見事に平成19年度「化学工学会技術賞」を受賞されました。

([http://www.scej.org/jp\\_html/award/19award.htm](http://www.scej.org/jp_html/award/19award.htm))

また、平成19年度の第39回化学工学会秋季大会の部会シンポジウムにおける講演を対象にして、第1回粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞(プレゼンテーション賞)3件:高岡大氏「層流上下振動攪拌における折りたたみ混合機構の解析」、佐藤ゆり奈氏「静止したマイクロバブルの溶解および収縮」、佐藤根大士氏「沈降粒子堆積層の固化機構の解析」、および粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞(奨励賞)1件:原田佳尚氏「PVCを模擬したDC懸濁重合における重合体の粉体特性に及ぼす攪拌条件の検討」を、それぞれ選定・表彰いたしました。

(<http://www2.scej.org/partluid/past.html>)

プレゼンテーション賞は大学院生、奨励賞は若手研究者を対象にした賞ですが、受賞された

方々の熱い感動が私たちにも伝わり、大いに元気付けられる思いがいたしました。

粒子・流体プロセス関連の特に優秀な研究論文を対象として粒子・流体プロセス部会フロンティア賞も制定され、平成18年度および19年度に公募いたしました。残念ながら応募がありませんでした。制定されたが応募がないということはどう考えればよいのか、平成19年度末の部会総会では、いましし推移を見守ることになっています。

技術賞については第1回の部会技術賞受賞技術が次年度の化学工学会技術賞を受賞されるとい順調な滑り出しを見たのですが、平成19年度の公募に対しては応募がありませんでした。これについては公募の広報を見直すことになっています。シンポジウム賞については平成20年度以降も同様に進行させることになっています。

部会賞事業は、粒子・流体プロセス関連分野の研究・企業活動の活性化に大きな力を発揮すると期待されます。皆様のお力添えを頂いて、大事に育てて頂きますよう、お願い致します。

(監事・前部会長・上山惟一)

### 部会ホームページのご紹介

2008年4月より粒子・流体プロセス部会ホームページを担当することになりました。これを機に、より多くの方にアクセスいただけるよう掲載内容の充実化を図っていきたく思います。なお、URLが下記に変更になっていますのでご注意ください。

<http://www2.scej.org/partluid/>

(副部会長・竹田宏)

### 部会への入会方法

化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)で粒子・流体プロセス部会へ入会を希望される方は、化学工学会ホームページの「入会のご案内/部会入会の申込み」

([http://www.scej.org/jp\\_html/info/info.htm](http://www.scej.org/jp_html/info/info.htm))より、お申し込み下さい。

化学工学会の法人会員、化学工学会会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス部会の賛助会員、特別個人会員になることを希望される方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

また、現在、分科会に所属されていない部会員で、入会希望の分科会がございましたら、部会事務局で受け付けますので、ご連絡下さい。

さらに、部会会員で配信メールが届かない方、あるいはメールアドレスを変更された方も事務局

までお知らせください。

Phone/Fax 099-285-8361(甲斐敬美)

099-285-8360(中里 勉)

E-mail fpp-jim@rc.cen.kagoshima-u.ac.jp

(メールを送信される際は、上記アドレスのアットマーク(@)を半角文字に修正ください。)

(事務局・甲斐敬美)

#### 部会ニュースレター編集後記

部会ニュースレターでは粒子・流体プロセス部会を構成する各分科会間の交流、部会会員への情報・各種企画案内の配信のほか、興味深いTOPICS や記事を掲載したいと考えております。ぜひ皆様からの積極的なご寄稿をお待ちしております。

(ニュースレター編集担当・寺坂宏一)